

2月21日(日)

第1会場

9:00~10:00 コントロバーシー1

2階 講堂

心房 pacing ; 心房細動予防と pacing site

【概要】

以前より心房細動抑制の目的で心房 pacing site や心房 pacing のアルゴリズムが検討されてきている。

心房 pacing site の検討とは、心房細動の維持に心房筋のリモデリングによる不応期の不一致が関与していることから、心房筋の不応期の不均一性を是正する目的で従来の右心耳以外の部位で心房を pacing することである。心房中隔上位に位置し、右心房と左心房を連絡する Bachmann bundle 部位を直接 pacing し、右心房と左心房を同時に興奮させ、不応期を一致させる Bachmann bundle pacing、右心耳と冠状静脈洞(Cs)より左心房側に心房リードを挿入し、右心房と左心房を同時に刺激する Bi-atrial pacing などがある。また、他の心房内の数箇所より pacing する multisite pacing (高位右房と下位心房中隔等,) や下位心房中隔後壁からの pacing などもある。これらの心房 pacing site やアルゴリズムに関しての評価は未だ確定されていない。

このコントロバーシーでは、これらの評価が定まらない原因に焦点を合わせてお二人に解剖に基づいた討議を行ってもらう予定である。

〔座長〕 中里 祐二 順天堂大学浦安病院循環器内科

結核予防会・複十字病院循環器科 ○鈴木 文男

十字会野島病院循環器内科 ○井川 修

2月21日(日)

第1会場

13:30~14:30 コントロバーシー2

2階 講堂

遠隔 monitoring は必要か？

【概要】

現在、欧米においてはICD,CRTD 植込み症例に対し、Deviceのデーターを電話回線やインターネット回線を通じて医療機関のサーバーに転送し、その作動状況や心不全診断までを含めて、自宅でも管理できる遠隔 monitoring が行われている。我が国においても、今年に入り、数種類のDeviceが遠隔 monitoring を行えるようになっている。

欧米における遠隔 monitoring 普及の背景には欧米独自の医療事情がある。それは、地域的要因として、病院が近隣にない、または、天候不順のため定期的通院が困難な場合や、形態化された医療費等、合理的価値観に基づくものと考えられる。

このため、この遠隔 monitoring システムを欧米と医療事情の異なる日本にそのままの形態で導入することが、必ずしも我が国の医療事情に適合するとは思われない。

確かに、医療過疎地においては必要とされるシステムと考えられるが、それに付随する設備、人員の配置、緊急時の対応システム、医療コスト、および患者の啓蒙等、日本独自の種々の問題があげられる。

このコントロバーシーでは、遠隔 monitoring が行われ始めた現時点での利点、不利点、および日本の医療として今後の進む方向を取りあげる。

〔座長〕 阿部 芳久 秋田県成人病医療センター循環器科

榊原記念病院循環器内科 ○梅村 純

慶應義塾大学医学部心血管炎症学 ○高月 誠司

2月21日(日)

第1会場

14:30~15:30 コントロバーシー3

2階 講堂

心室 pacing : アルゴリズムと pacing site

【概要】

2002年までの欧米の大規模試験では、対象がPacemaker植込みの必要な徐脈性不整脈であり、その試験の目的はpacemaker植込みによる合併症や長期予後の検討、または、どのpacemaker modeが優れているかという検討であり、pacemaker modeの違いによる合併症の比較が主であった。その結果、DDD modeがVVI modeに比べ、より生理的 pacing とみなされていた。

しかし、2002年頃から植込み型除細動器（ICD）が広く用いられるようになり、対象が徐脈性不整脈だけではなく、低心機能症例が多く含まれるようになった。DAVID trialで低心機能症例では、VVI modeのICDのほうがDDDR modeのICDに比べ有意に全死亡、心不全の発症が少なかったと報告された。その後の検討で、心不全や心房細動の発症の原因には右心室心尖部のpacingが関与しており、そのPacing率が多くなると心不全や心房細動を惹起するようになることが明らかにされた。その原因として、右心室心尖部pacingはQRS幅を増大し、これにより左心室の収縮同期不全が惹起され、心機能の低下や心房細動が発症するとされている。現在では、右心室心尖部pacingの代わりの右室流出路や右心室中隔などのpacing siteの検討と、なるべく心室をpacingしないpacemakerのアルゴリズムの検討がなされている。

このコントロバーシーでは、これらの心室pacing siteおよび心室pacing抑制機能に関しての是非や今後の方法論を討論したい。

〔座長〕 石川 利之 横浜市立大学附属病院循環器内科

北里大学医学部循環器内科学 ○庭野 慎一

杏林大学医学部第二内科・不整脈センター ○池田 隆徳